



第2号復元住居

第4号復元住居

1号復元住居

いつごろのもの？

縄文時代中期の前半（約4,500年～5,000年前）のもの

出てきた物は？

・ 竪穴式住居跡約20戸。食料の貯蔵や加工用の穴、多数。  
・ 土器、石器、ヒスイ原石、黒曜石など多数。

どのようにして造られた？

・ 地面を円形や四角形に掘りこんで土間をつくり、炉を設け、柱を立て、その上に木の枝やカヤなどで屋根をつけて造った。



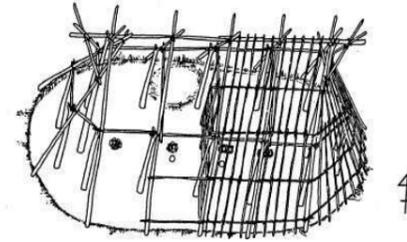
# 不動堂遺跡



※ 縄文時代の共同体や生活様式を学べるよう、3棟の住居跡を復元した。

だ円形の復元住居

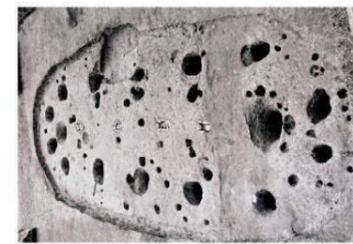
- ・ 第1号復元住居 24㎡
- ・ 第2号復元住居 120㎡ (たたみ70枚分の広さ)
- ・ 第4号復元住居 35㎡



第2号住居復元想像図

国内最大級の第2号復元住居

- ・ 遺跡のほぼ中央部に位置する。
- ・ 東西17m、南北8mの小判型。
- ・ 2室に区切られ4個の石組炉と2個の埋めがめが等間隔でならぶ。
- ・ 柱跡が14個、等間隔でならぶ。
- ・ かりや祭りなどを相談する集会所あるいは村の人々の作業所だったのではないかと考えられている。



発掘当時の第2号住居跡

35cmのものさしが存在した？

第2号居跡の柱穴は規則正しく左右対称に並んでおり、長さの基準になった物があったことが推測されます。

- ・ 南北の柱の間隔 4.2m (35cm×12)
- ・ 東西の柱の間隔 2.8m (35cm×8)

これらから縄文時代には35cmを単位とする「ものさし」のような物があったと考えられます。

縄文人はヒスイを好んだ？

ヒスイの緑色は、大自然をイメージさせ、神秘的な光を放ちます。かたくて加工しにくいヒスイは、装身具として価値がありました。労力を伴うものに、縄文人は、価値観を見出していたのでしょうか？

年表

時代	旧石器時代	縄文時代		弥生時代	古墳時代															
年代	30000～10000年前	10000年前～	8000年前～	6000年前～	5000年前～	4000年前～	3000年前～	2300年前～	紀元後300年～											
主な生活の移り変わり・主な出来事	石刃と打製石器が使われた ナウマン象やオオツノ鹿がいた	磨製石器・縄文土器・弓矢が使われる	竪穴住居に住み始める	竪穴住居での定住生活が営まれる	貝塚が形成される	耳飾や装身具の製作がおこなわれる	土器の文様が装飾的になる	まじないの道具が製作される	ヒスイの玉類の生産がおこなわれる	擦り切り定角磨製石斧が生産される	大型住居が作られる	火炎土器がみられる	特殊な石器が多くなる	まじないの石器が発達する	東北地方の文化が伝わる	銅鐸・武器的祭器による祭祀がおこなわれる	稲作・金属器の使用が始まる	近畿地方に前方後円墳が現れる	大陸から須恵器の生産方法が伝わる	家族的な横穴墓が作られる
朝日町・県・国の主な遺跡	北野台 岩宿（群馬県）	柳田（尖頭器） 馬場山D	馬場山D・F	明石A 三内丸山（青森県）	境A・柳田	三峰遺跡群	境A（磨製石斧・ヒスイ玉類の生産） 馬場山遺跡群（石器・ヒスイ玉類の生産）	不動堂	下柳山（石棒・玉類） 新山（石棒・土偶・釣手土器） 愛本新（黒部市） 境A（磨製石斧・ヒスイ玉類の生産） 馬場山遺跡群（石器・ヒスイ玉類の生産）	三浦A 柳田A 境A 下柳山新 境A 桜町（小矢部市） 馬場山遺跡	大境洞窟（氷見市）	舞古墳（奈良県） 高松古墳（奈良県） 明松古墳（奈良県） 馬場山D・A（奈良県） 馬場山D・A（奈良県） なご玉（ヒスイの勾玉）								

土器にこめられた縄文人のメッセージ…！？

**飾りの数：** 飾りとして作られた突起部分の数が不思議と「奇数」なのです。偶数のほうが等分にでき作りやすいのに、わざわざ奇数としたのは、縄文人が奇数に神秘的なあこがれをもち、なんらかの意味をもたせていたのかもしれない。

**縄模様：** 土器の表面に、縄を転がして模様をつけたものがあります。縄の編み方や転がし方で模様を少しずつ変えることができます。1本の縄から作り出される模様のパターンは200種類以上も見つかっています。縄文人は土器の縄模様にどんな思いをこめていたのでしょうか。

不動堂遺跡出土遺物



縄文土器

深鉢形土器（前葉）



縄文時代の人々は、どんなふうに土器や石器を使っていたのかな？



鉢形土器の口縁部分（中葉）



